



# 高校生のための心理学講座 in 京都大学

京都大学大学院教育学研究科 教授  
楠見 孝 (くすみ たかし)

本稿では、京都大学において2014年12月13日(土)に開催した日本心理学会主催「高校生のための心理学講座」(関西I地区)について紹介します。参加者は、大部分が高校生で、教員、認定心理士、会員、一般の方の計83名でした。企画と準備は文学研究科の板倉教授と大学院生によって進められ、当日の講義は、午前・午後2名ずつ行い、最後の時間は4名が壇上に上がり、参加者と質疑応答を行いました。それぞれの内容を講義順に紹介します。

## 比較認知科学

(京都大学大学院教育学研究科・明和政子)

講義「人間らしい心が育つ道すじをたどる：[比較認知発達科学]からのアプローチ」では、手足などの人間の形態的な特徴と同様、目には見えない心のはたらきも進化的淘汰の産物であることを説明し、人間らしい心を知るには、それが「いつ・どのように・なぜ生まれてくるのか」の解明が必要であることを述べました。そして、比較認知発達科学は人間の心が発達する道すじとそれを支える生物学的基盤を、個を取り巻く他者、社会、文化、環境という側面から明らかにすることを説明しました。さらに、人間の心の発達を支える要因を、ヒトとチンパンジーの行動観察や実験を通して客観的にとらえる試みを紹介しました。

受講者アンケートでは、「新生児模倣はチンパンジーでも見られることに驚いた。何でも実験で確かめることがすごいと思った」「脳や発達メカニズムなど、胎児や新生児からの研究が進んでいて、子育て支援も妊娠のころから進

めていくことが大切だと感じた」など、最先端の研究成果への驚きが語られていました。

## 発達心理学

(十文字学園女子大学・内田伸子)

講義「子どものウソは『嘘』か? : 語り・想起・創造のメカニズムからの考察」は、まず、創造力の発達には五官を使った経験が不可欠であることを述べ、つぎに、子どもは嘘をつけるのか? という問いかけから、ウソと嘘のメカニズムを認知発達研究の知見に基づき検証をしました。そして、創造的想像とウソをつくメカニズムの類同性を示唆する知見を示し、最後に「問い」は探究の出発点であり、「肝心なのは問うことをやめないこと」(アインシュタイン)というメッセージを伝えました。

受講者アンケートでは、「子どものウソが嘘でない。大人が子どものウソを嘘にするということは自分に子どもができたときに、嘘をつかない子どもに育てる時の参考になると思う」「甲山事件裁判において[会話協力の原則](子どもの証言は大人の期待に応じた答えによるもの)をつかって裁判に勝訴したという話は、驚きの内容だった。心理学は本当に社会の役に立っていると思った」など、講義で取り上げられた数々の事例によって「面白くて、興味が湧いた」という感想が寄せられました。

## 認知心理学

(京都大学大学院教育学研究科・楠見孝)

講義「認知心理学：よりよい意思決定をするには」では、思考における直観と熟慮の特徴を理解し、よりよい意思決定をする方法を考えることを目標にしました。まず、直観的思考は、ヒューリスティックを用いたすばやい思考



### Profile—楠見 孝

1987年、学習院大学大学院人文科学研究科心理学専攻博士課程退学。京都大学大学院教育学研究科教授。博士（心理学）。専門は認知心理学。著書は『ワードマップ 批判的思考』（共編著、新曜社）、『実践知』（共編著、有斐閣）、『科学リテラシーを育むサイエンス・コミュニケーション』（共編著、北大路書房）、『なつかしさの心理学（心理学叢書2）』（編著、誠信書房）、『思考と言語（現代の認知心理学3）』（編著、北大路書房）など。

で、うまくいくことも多いが、系統的バイアスが生じることを、デモ実験をまじえて解説しました。一方、批判的思考は、論理的で偏りのない、内省的で熟慮的な思考であり、直観をモニターし、修正する役割を持つことを説明しました。そして、良い意思決定の基準が複数あること、その中で、後悔しない決定をする大切さを述べました。最後に、よりよい意思決定をするには、直観を批判的思考でチェックすることが重要であることを伝えました。

受講者アンケートからは、「直観は自分の中では頼りになるものだと思っていたけれども、そんなことがなくてびっくりした」「高校の探究の授業と似ていて、批判的にみるコツを知ることができた」など、探究学習や日常生活へ活用できるという感想が多くありました。

### 感情心理学

（京都大学こころの未来研究センター・吉川左紀子）

「感情心理学」では、まず、心は直接目で見ることはできませんが、心について考え、研究し、心のはたらきの「くせ」を心理学的に検証できることを説明しました。そして、心理学者は心を調べるたくさんの方の方法を編み出してきたこと、最近の心理学では「意識下の心のはたらき」や「気持ちが通じる仕組み」について、顔画像を瞬間提示する実験装置や脳機能画像を測定する装置などを用いてさまざまな発見をしていることを、簡単な実験をまじえて解説しました。そして、心理学的な「心の見方」について話しました。最後に、社会や環境と人間の問題を考えることが、人間の理解、そして、自分を知ること、さらに心理学を学ぶことになるというメッセージを伝えました。

受講者アンケートでは、高校生からは「心理

学について深く理解するきっかけになった。人の表情につられて自分も同じような表情になるのはそうかもしれないとおもった」、教員からは「仮説と検証方法について、条件をそろえて実験をする、データを過大評価することなくまとめることを生徒達に伝えていきたい」など科学的方法論についての感想がありました。

### まとめと今後の課題

今回の講座では、私たちが進めている研究を紹介することで、高校生に科学としての心理学についての理解を深め、心理学を志す人を増やしたいと考えました。高校生の感想「心理学は文系理系に関わらず全ての学問に通じる学問であること、単に考えるだけでなく、科学的に証明することが大切だとわかった」からは私たちの意図が伝わったことを知ることができました。

今後の課題は、多く参加者を集めることにあると考えます。今回は、地元の教育委員会と、知り合いの高校教員を通しての広報を行いました。複数の参加者があった高校では、教員が生徒に受講を勧めるとともに、教員自らが参加してくれました。さらに参加者を増やすには、高校における探究学習の支援などの高大連携を通して、教員と生徒の心理学についての理解を深める活動を広げることが大事だと考えます。

なお、今回の講演は、4つの高校の探究学習の成果も含む形で、心理学叢書の1冊として刊行されることになりました。関心をもつ、多くの方々に読んでいただければ幸いです。

### 文献

内田伸子・板倉昭二（編）（印刷中）『高校生のための心理学講義（心理学叢書5）』誠信書房